

平成19年度血液事業担当者会議議事次第

平成19年9月13日(木)
14:00~15:30
中央合同庁舎5号館低層棟2階講堂

1 開 会

2 挨拶

(1) 厚生労働省 血液対策課長 新村 和哉

(2) 日本赤十字社 日本赤十字社 西本 至
血液事業本部長

3 議 題

(1) 血液事業の推進等について 血液対策企画官 植村 展生

(2) 血液事業の課題について 日本赤十字社 沼田 芳彰
血液事業副本部長

(3) 献血者被害救済制度について 日本赤十字社 碓井 達夫
参事

(4) 血液製剤の適正使用等について 血液対策課課長補佐 武末 文男

4 質疑応答

5 閉 会

別表

平成 年度血液量調査表

表1 平成 年度輸血用血液製剤の供給実績報告

区分	全血製剤			赤血球製剤			血漿製剤				血小板製剤							
	1単位	2単位	計	1単位	2単位	計	1単位	2単位	5単位	計	1単位	2単位	5単位	10単位	15単位	20単位	計	
本数			0			0				0								0
単位数			0			0				0								0

※①前年度の供給実績を記入する(都道府県外を含む)。②供給実績は返品数を差し引いた数とする。

表2 平成 年度輸血用血液製剤の需要見込報告

区分	全血製剤			赤血球製剤			血漿製剤					血小板製剤								
	1単位	2単位	計	1単位	2単位	計	1単位	1.5単位相当	2単位	3単位相当	5単位	計	1単位	2単位	5単位	10単位	15単位	20単位	計	
本数			0			0						0								0
単位数			0			0						0								0

※①過去3年間と本年度の供給状況、返品等を勘案し算出する。

②医療機関の増床、移転等大きく需要見込みに影響する動向を加味する。

③血漿製剤については、保存前白血球除去製剤(LR製剤)の導入による容量の変更から、LR-1製剤を1.5単位相当、LR-2製剤を3単位相当の欄に記入する。

表2-2

原料血漿 確保目標量(L)

表3 平成 年度輸血用血液製剤の製造見込報告

区分	全血製剤			赤血球製剤			血漿製剤				血小板製剤							
	1単位	2単位	計	1単位	2単位	計	1.5単位相当	3単位相当	5単位	計	1単位	2単位	5単位	10単位	15単位	20単位	計	
本数			0			0				0								0
単位数			0			0				0								0

※表2に基づき期限切れ及び破損の製品減損数を考慮して算出する。

表3-2

原料血漿確保量 (L)

※確保量は、全血献血、血小板献血及び輸血用血液製剤からの転用により確保される血漿量とする。

表4 平成 年度必要献血者数報告

区分	全血献血			血漿成分献血		血小板成分献血				
	200mL	400mL	計	5単位	計	5単位	10単位	15単位	20単位	計
献血者数			0		0					0
血液量(L)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

①表4は表3に基づき、検査不合格等を考慮し、必要献血者数を計上する。

②表4における血液量への換算方法

・全血献血由来: 200mL=0. 2L, 400mL=0. 4Lとする。

・血小板成分献血由来: 全て0. 4Lとする。

・血漿成分献血由来: 5単位=0. 45Lとする。

表4-2

血漿成分献血による原料血漿	
確保量(L)	献血者数

①表4-2、確保量は、表2-2から表3-2を差し引き、検査不合格等を考慮した量とする。 表2-2 < 表3-2 + 表4-2

②表4-2、献血者数への換算は都道府県の一人当りの血漿成分献血量を基に算出する。 1人当たりの血漿成分献血量 約 mL/人

表5 平成 年度必要血液量報告

区分	全血献血	成分献血			合計
		血小板成分献血	血漿成分献血	小計	
血液量(L)	0	0	0	0	0

①表4に基づき各献血種別を記入する。②血漿成分献血には、表4-2の確保量を加算する。